

# No. 1411

## 未来をひらく

— 自動制御国際会議 —

第8回自動制御国際会議が8月24日から9日間、京都の国際会議場で開かれました。この会議は3年に一度世界自動制御連盟が開いているもので1960年の第1回モスクワ会議から数えて今回が8回目。会議には近年の自動制御技術の著しい発展を反映してか、41ヶ国から約1,300人が参加しました。展示室では最新の自動制御装置が披露されました。この自動制御の開発は危険な仕事や精密な仕事などを人の力を借りずに行うことを可能にし、またいくつかの装置を組み合わせることにより省資源、省エネルギーにも役立っています。また日常生活のなかでもロボット工学の分野で身体障害者用の義手などの開発も進められています。機械に機械をコントロールさせるという自動制御。未来を開く新しい技術としてその発展が期待されています。

## 親子坐禅会

— 千葉・鹿野山 —

千葉県富津市にある鹿野山禅青少年研修所。夏休み中に少し変わった経験をしてみたいというチビっ子達の願いで、親子坐禅会が行なわれました。早朝から本堂に集まってまずは坐禅。心身を落ちつけたあと粥座（オカユの朝食）。朝と晩に坐禅を組むことで、自分の心を見つめてみよう、この日ばかりは真剣そのもの。子供たちは、お父さんやお母さんのということよりも和尚さんの一言が効目があるらしく、いつもの腕白ぶりはどこへやら、足の痛さも忘れて一生懸命坐禅を組んでいました。

## 生命と土の香り

— 磯部則男 個展 —

三重県鈴鹿市算所。ここに、難病といわれる進行性筋ジストロフィー症と闘いながら絵を描き続ける画家がいる。磯部則男さん（35才）だ。初めは趣味として始めた絵画の世界。しかし、今では自由を失った手足の障害を乗り越えて巧みに絵筆をあやつる。絵の素材には磯部さんの基本テーマである「生命と土の香」に基づき農産物や農機具が選ばれる。100号の大作「梅雨のあい間に」は母親小ゆきさん（72才）がキャンパスを動かすのを手伝ってやっと描きあげた。地元では名の売れた画家でも中央ではまだ無名に近い。一度、競争の激しい、厳しい評価を受ける東京で個展を開きたい。それが磯部さんの長年の夢であった。が、ついにその日が来た。今年の8月、東京・銀座の画廊で個展が開かれることになった。俳優の森繁久弥さんも応援にかけつけてくれた。今、磯部さんはいふ。「神様が私をこんな身体にしたのは、他の人が余り興味をしめさない、こんな絵を描けということだったのだろうと思う」と。